

巻 頭 言

取締役
形鋼セクター長
水島製鉄所副所長

山 内 豊



国内で使用される普通鋼鋼材のうち約 50% が建築・土木などの建設用途に用いられ、そのうち約 30% は形鋼製品が使用されています。このように形鋼は社会基盤を支える重要な鋼材であり、川崎製鉄の大形工場では 1968 年に稼動して以来、H 形鋼や鋼矢板などを製造してきました。以後約 30 年の間に需要業界の要望を反映して多くの新製品を開発してきましたが、1989 年に世界に先駆けて製品化した外法一定 H 形鋼はその代表的なものです。

1990 年代に入ると建築構造物はますます大スパン化・高層化していき、これまで以上に高信頼性の鋼材が要求されるとともに、建設費用縮減のため大断面形鋼や高強度鋼が必要とされてきました。水島製鉄所・大形工場は上記外法一定 H 形鋼を製造するため種々の設備改造を行ってきましたが、その総仕上げとして 1996 年に粗ユニバーサル圧延機の更新を行いました。このとき需要業界の大断面化・高品質化などのニーズに対応できる設備仕様とし、これを活用した新製品開発を製販技一体となって進めてきました。

本報で紹介するこれらの新製品は独自の技術開発によるものであり、実プロジェクトに使用されてお客様から好評をいただいています。今回は建築用鋼材が主体となりましたが土木用鋼材も開発が完了もしくは進行中であり、次の特集号を期待いただければと思います。

今後、当社製品でなければならないとお客様から言っていただけるようにさらに開発を進める所存であり、一層のご指導ご鞭撻をお願い申し上げる次第です。